

あまみす

雨水利用を進める
全国市民の会
会長 辰濃和男
〒131 東京都墨田区東向島
1-8-1
☎ 03-3611-0573
FAX 03-3611-0574

幹、さらにふとく

— 2/17の総会を終えて

◆ 会長 辰濃和男



『雨水利用を進める市民の会』に「全国」という言葉がつきました。これからは『雨水利用を進める全国市民の会』です。

ただ単に二つの文字がふえただけではなくて、これは私たちの会の成長を示すもので、それを思うと、感無量です。

私たちの仲間が、雨水利用の運動を進めていこうと話し合ったのは1985年です。どのような運動に発展してゆくのか、正直いって、だれにもわかりませんでした。ただ、「志だけは高くかげよう」という熱い思いが仲間の胸にありました。

東京の墨田区で雨水利用の国際会議を開く話が出てきたのは、1992年で、2年間の準備期間をへて、1994年夏に国際会議を催しました。皆さんのが献身的な奮闘のおかげで、国際会議は大成功でした。私たちの運動は、この1985年から1994年までを第1期といつていいくでしょう。土壤のなかの木の実が土になじみ、幼い芽をもたげ、やがてぐんぐんのびてゆく。そんな時期です。

1995年から1997年までは第2期です。墨田を拠点にして、さまざまな催しが行われ、さらに沖縄でも「雨水フェア」をひらくことができました。全国への広がりが軌道に乗ってきたのです。木はさらにすくすくと伸びて、枝をひろげています。

さあ、そして、今年からが第3期です。

この会の中核はあくまでも市民運動集団ですが、さらなる発展をめざすには、高い水準をもった専門家的な集団であること、未来人の参加をめざす教育集団であること、雨水文化の継承と創造をめざすための文化集団であること、などが第3期の課題になります。同時に、地方自治体の志ある人ひとと腕を組んでゆくことも重要で、この夏の「雨水フォーラム」はまさに、それが主題の一つです。

大地にしっかりと根を張り、そのタネを全国へ、世界へまけるよう、第3期を充実したものにしてゆきましょう。

今後の飛躍を準備する新体制発足 2/17、総会開かれる

会名⇒「雨水利用を進める全国市民の会」に。

会則改正・新役員選出

◆ 副会長・代表幹事 山本 耕平

1994年8月に開催した「雨水利用東京国際会議」の余熱さめやらぬうちに、その勢いと志をひきついでいくべく組織したのが、私たちの「雨水利用を進める市民の会」でした。

発足から3年を経過し、各地に雨水利用のグループが生まれるなど、活動の成果は着実に実っています。いっぽう、「市民の会」が社会的に認知されるにつれて、会の運営基盤の強化が課題になってきました。

世話人会において議論を重ねた結果、この度、会則の全面改正と役員体制の強化をはかることになり、去る2月17日の総会において提案、承認されました。

改正の要点は次のとおりです。

* 会の名称が「雨水利用を進める全国市民の会」に変わりました。

全国各地で活動団体が生まれています。こうした団体の全国ネットワークのセンターという意味で「全国」という言葉を入れました。

* 会員制度を整備しました。

正会員以外に、学生会員、賛助会員（企業など）、公益会員（自治体、公益団体）、特別会員（海外、学識者）という区分をもうけました。

* 役員制度を整備しました。

会長を補佐するために、副会長を若干名、置きます。また、幹事20名程度を置き、運営に関する協議の場として幹事会を設置します。監査を置き、会計をチェックします。

* 事務局長職を置きます。

日常の事務を行う事務局長職を設けました。

総会であらためて役員を選出した結果、以下のように承認されました。

会長 辰濃 和男

副会長 山本 耕平（代表幹事）・徳永 暢男
佐原 滋元

事務局長 村瀬 誠

幹事 安藤 勝治・市川 龍・伊藤 林

糸賀 幸子・今関 久和・伊礼 弘

大塚 康三・小川 幸正・上林 裕子

菊地 文代・佐藤 清・篠原 和久

柴 早苗・鈴木 陽子・高橋 朝子

高原 純子・田中 清子・長尾 愛一郎

人見 達雄・松本 正毅・宗像 信司

（副会長は幹事を兼ねます。幹事の代表が代表幹事です）。

監査 小林 容三・山本 博子

会計 田中 清子

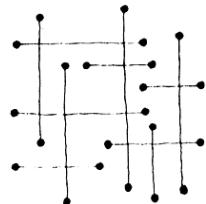
役員一同、会の運営に微力を尽くしたいと思います。よろしくお願ひいたします。



雨水利用は世界的課題

国際雨水センターをめざそう

◆ 事務局長 村瀬 誠



雨水利用東京国際会議の成果を引き継ぎ、雨水利用東京宣言の実現をめざして、「市民の会」は1995年4月に誕生しました。

以来、現在に至るまで、雨水利用の技術開発、国内外の雨水利用に関する情報の収集および提供、雨暦の制作、雨水探検隊など雨や雨水利用を通じての環境教育、中国やイラン、ドイツなど海外の雨水利用の現地調査および雨水利用を通じての国際交流、会報紙“あまみず”の発行など、会員の提案にもとづき、活発な活動を展開してきました。

広がるネットワーク

ここ数年間、雨水利用のネットワークは新たな展開を見せはじめています。

第一に沖縄をはじめ、四国、関西、中部などにも市民組織がつぎつぎと誕生し、市民の雨水利用のネットワークの輪が全国的な広がりになりつつあります。

第二に、2年前に発足した「雨水利用自治体担当者連絡会」には83の自治体が参加するまでになりました。連絡会において雨水利用の情報交換と政策の交流を行うなかで、多くの自治体が民間の雨水利用に対して助成をするようになってきました。

第三には、まだネットワークにはなっていませんが、雨水利用に積極的に取り組む建築家などの事業者が増えてくるようになってきました。

地球規模のネットワークへ

1996年、トルコのイスタンブールで開かれた国連人間居住会議（ハビタットII）では、21世紀の初頭には開発途上国の中では人口の集中

化が急速に進行し、水不足が深刻化して水戦争が起きるかもしれませんと、警鐘が鳴らされました。地球の温暖化はそのことに拍車を掛けることになるかもしれません。

この水危機を開拓するために、地球規模で雨水利用のネットワークを創造していくことは、今や時代の要請になりつつあります。タイやケニア、ブラジルでは雨水利用の市民組織が誕生し、飲用水の確保のために雨水利用の推進に取り組んでいます。ドイツでも建築家などの雨水利用の専門集団「f b r」が誕生し、市民の雨水利用の相談、指導を行う一方、行政に雨水利用の推進を働きかけています。

市民の会は、こうした世界の雨水利用の市民グループとネットワークし、雨水利用で地球を救っていくために、今年の2月から「雨水利用を進める全国市民の会」（会長・辰濃和男氏）として、新たなスタートを切ることにしました。

そのねらいの一つは、日本の雨水利用を一層推進していくために、全国レベルでの市民・事業者および自治体の、雨水利用のネットワークを創造することです。二つは、日本から世界へと雨水利用のネットワークを広げていくことです。

21世紀は雨水の時代です。私たちは、国際的な雨水利用に関する技術、文化および政策の交流と活動の拠点である、国際雨水センターを展望しつつ、かけがえのない地球を未来に残していくために、雨水利用を地球規模で推進していきたいと考えています。



阪神大震災に学ぶ 防災自立住宅と雨水利用

日時 3月6日(金) 午後6時半～
場所 墨田区役所13階、131会議室
講師 林英雄建築設計室 林 英雄氏
主催 雨水利用を進める全国市民の会

○ 自立建築ってなに？

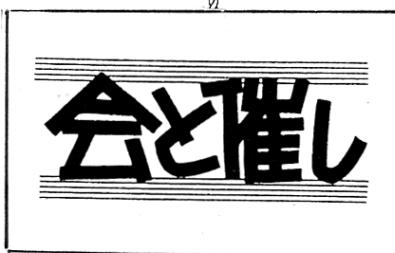
林英雄氏は、『自立建築のあるまちづくり』という本を96年に出しています。(北斗出版、1854円、共著、山田利行氏)

あの阪神大震災で、林さんら家族が住んでいた、神戸市長田区大道通りの、通称「四軒長屋」は、一瞬にして全壊してしまいました。建築家である林さんは、その後の壮絶な体験から「自立建築」を提唱しています。

自立建築とは、自給システムによって、生活を最低三日間、維持できる能力を備えた建築物です。その内容はどのようなものなのか？

自立建築第一号の「まあぶる・おおみち」は9階建ての集合住宅。オール電化設備、太陽光発電、防火水槽を兼ねた雨水貯留槽を備えています。

講演会にご参加、またはご一読下さい。



● タイのジョニ・オダジョ氏 ドイツのクラウス・ケーシヒ氏を迎えて 雨水交流会

日時 5月29日(金) 夜
会場 未定
主催 雨水利用を進める全国市民の会

両氏は、エコ・パートナーシップ東京会議に、タイとドイツから参加が予定されています。

ドイツからのクラウス・ケーシヒ氏は、f b r(水の有効利用と雨水利用の専門家集団)の会員の一人です。f b rは、ドイツでセミナーの開催

● エコ・パートナーシップ 東京会議

日時 5月26日(火)～29日(金)
場所 東京国際フォーラム
主催 国連、東京都など
「循環型社会の文明を創る」というテーマでの4日間にわたる、大規模な国際会議です。全体会議と3分科会、11のサブ分科会に分かれています。詳細は東京都で配付のパンフレットをごらんください。現在、参加者を募集・受付中です。

「水循環・生態系」(サブ分科会C)

日時 5月27日(水)・午後1時45～5時
場所 東京国際フォーラム
座長 村瀬 誠氏

発表者◆ジョニ・オダジョ氏(タイ)「タイにおける水の循環と緑の保護」◆パンスワット氏(タイ)「アジアのモンスーンのある町の水問題」◆クラウス・ケーシヒ氏(ドイツ)「都市における雨水利用」

日本からの発表者も数人予定されています。この分科会は平日の昼に開かれるので、参加しにくいかと思いますが、ぜひ、奮ってご参加ください。



・出版・広報活動などをして、雨水利用などの拡大を図っている団体です。建築家を中心に、350人の会員がいます。

タイからの参加者は、メナム川に関する調査研究活動を行っているジョニ・オダジョ氏です。

村瀬さんが昨年11月にドイツを、今年2月末にタイを訪問して交流を行っています。

この交流会に、多くの市民の方が参加されることを期待しています。詳細は追ってお知らせします。



ドーム球場の雨水利用



▶▶ 情報部会

ドーム型の野球場は、平成9年末時点で4カ所あります。いずれのドーム球場も大きな屋根の全部もしくは一部に降る雨を、雑用水として利用しています。

情報部会では、これまでに収集した施設データをもとに、下記のような比較表を作成してみました。

施設の規模では、福岡や大阪、名古屋ドームが良いように思われます。

しかし、集水面積が小さいにもかかわらず、年間3万m³以上の雨水を活用している古参の東京ドームも、なかなか立派ではないでしょうか。

さて、来年度のセ・パ両リーグのペナントレースも気になるところです。

そして、4つのドーム球場において行われる「雨水利用ペナントレース」も楽しみです。

(市川 龍)

	東京ドーム	福岡ドーム	大阪ドーム	名古屋ドーム
竣工年月	1988年3月	1993年3月	1997年2月	1997年2月
集水面積 [m ²]	16,000	26,000	30,000	35,000
貯留槽容量 [m ³]	1,000	2,900	3,000	2,800
処理の有無	砂ろ過 + 殺菌	砂ろ過 + 殺菌	無し	砂ろ過 + 殺菌
利用の用途	①便器洗浄水 ②植栽散水	①便器洗浄水 ②植栽散水	①便器洗浄水 ②植栽散水	①便器洗浄水 ②植栽散水
年間利用水量 [m ³ /年]	約32,000 ※1993.10~ 1994.9実績	約39,000 (全開水量の27%) ※1993年実績	※データ収集中	※データ収集中

読書

はてなせ"どうして
クイズごみとりサイクル 山本耕平著
合同出版 ¥1200+税

面白くて、勉強になって、とても真剣になってしまう本です。ぜひ、本屋に注文して、読んで下さい。



ひのくに



人見 達雄さん

**立川保健所職員
発明家
市民の会幹事**

東京都多摩立川保健所に勤務しつつ、身近な材料を使って、身の回りの水と接する方法を提案しています。

水の汚れ具合を、コカコーラを使って簡単に測定する方法もそのひとつ。測定する水の色を、水道水にコカコーラを混ぜたものの色と比較し、測定結果をコード度という量で表現するものです。むずかしい法則や、原理とは無関係で、自分の目で、水の汚れ具合を判断します。このような測定の仕方によって、現代の文明生活のなかで眠ってしまった「人間の感性」を回復することが重要だ、と強調します。

人見さんは、地震などの災害時に備えて、ティッシュペーパーとペットボトルだけで出来る簡易浄水装置も考案しました。

「水道が普及してたかだか数十年ですからね。それ以前は水質の基準なんかないもの。

昔の人たちは、自分自身の五感をはたらかせながら味や色を吟味して、飲めるかどうか判断してきたんです」。そういうわれた言葉が、つよく心にのこりました。

災害がおきて、断水になった場合、雨水を飲むことが有効であるという意味で、ティッシュペーパーとペットボトルの簡易浄水装置を通した雨水を飲んでいるところを、先日テレビが放映しました。

「いつも雨水ばかり飲んでいるように、皆に誤解されたよ」と、大笑いしていました。新聞にもテレビにもよく登場する「有名人」の一人です。

2月17日の市民の会総会では幹事の一人に選ばれました。どこか悠々として、マイペースで、楽しげな人見さんの生き方を、豊かさの中で行き詰まっている若者たちに見てもういたい、と思いました。(仲)

新役員の顔ぶれ

今回総会で選出された新役員を少しだけ紹介させていただきます。粗削りの素描ですが。

副会長の佐原滋元さんは、墨田区が誇る向島百花园の「主」です。建築家、墨田区連合PTAの会長という顔ももっています。

幹事の安藤勝治さんは「雨水くん」と名付けた魔法のバケツの考案者です。「雨水地下貯留槽のフタ」の考案では、全国発明コンクールで奨励賞を受賞したこともあります。

幹事の鈴木陽子さん、市川龍さん、松本正毅さんなどは国際雨水センターにむけての情報活動、佐藤清さんは雨水利用建築のエキスパートです。柴早苗さん、篠原和久さん、大塚康三さんは、雨水カレンダー制作の中心メンバーです。大塚さんは「15年かかわっていますが、雨水利用が世界的な広がりをもつとは、当時、思っていませんでした」と語っています。

徳永暢男さん、伊藤林さんなどの得難いキャラクターも健在です。雨水利用を進める全国市民の会と名を改めた会が、市民運動の面でももっともっと活発に動いていくことを期待しましょう。



水琴窟をご存じですか

2月21日、情報部会の市川さんのお誘いで静岡県の三島市へ行ってきました。三島市在住の水琴窟師、田村光さんが長照寺に完成させた水琴窟の、音色を聴くために――。

田村さんによって、「天水琴」と名付けられた水琴窟から流れるたえなる音色は、日本文化の深さ、繊細さを感じさせ、至福のひとときでした。今回は、実は6月ごろに予定している「市民の会の見学会」の下見です。三島在住の土屋康博さんが、柿田川の湧水地まで案内してくださいり、楽しい一日でした。

こんど、ぜひご一緒にまいりましょう。

村本恵子さん、「雨乞い」にはまる

沖縄の雨水フェアのとき、村本さんは信州別府温泉の雨乞い祭り「オカミサミット」を取材中でした。京都の貴船神社をはじめとして、あちこちの雨乞いを調べています。

3月10日も貴船神社のお祭りだと、でかける様子です。雨水事典などで、その成果を発表してもらえる日が楽しみです。